

「幼児・小学生の生活に対する新型コロナウイルス感染症の影響調査」より

# コロナ禍を受けて「つながり」を求める 保護者の姿が明らかに

ベネッセ教育総合研究所では、コロナによる感染症の流行とそれに伴う生活環境の変化が、幼児と保護者に与えた影響を明らかにすることを目的に、調査を実施しました。その結果から見てきたのは、子育てを通じた「人とのつながり」を強く求める保護者の思いでした。

## 8割以上の保護者が 以前より「つながり」を重視

コロナ流行による保護者の気持ちの変化を象徴的に表しているといえそうなのが、(図1)です。流行前と比べて、「人とのつながりを大切にしたいと思うようになった」と答えた保護者は、実に8割にも上りました。その背景には、コロナ禍により一時的に人とのつながりが断たれて、物理的、精神的にさまざまな不安や苦勞が生じやすい状況があったことが考えられます。

「コロナ流行に伴う悩みや気がかり」を聞いた設問でも、子ども同士つながりがもてないだけでなく、保護者自身が園や地域とのつながりを失ったことに悩む声が多くありませんでした(図2)。自由記述回答にも、「子育て支援センターなどで、ほかのお母さんや子どもたちと交流できることがどれほど貴重な時間だったかと改めて感じた」「園は、ただ預かってもらう場所ではなく、子どもも親も第三者とかわかって育つ場所だと感じた」といった声が寄せられました。

## 人とのつながりの有無は 子育てに対する気持ちに関連

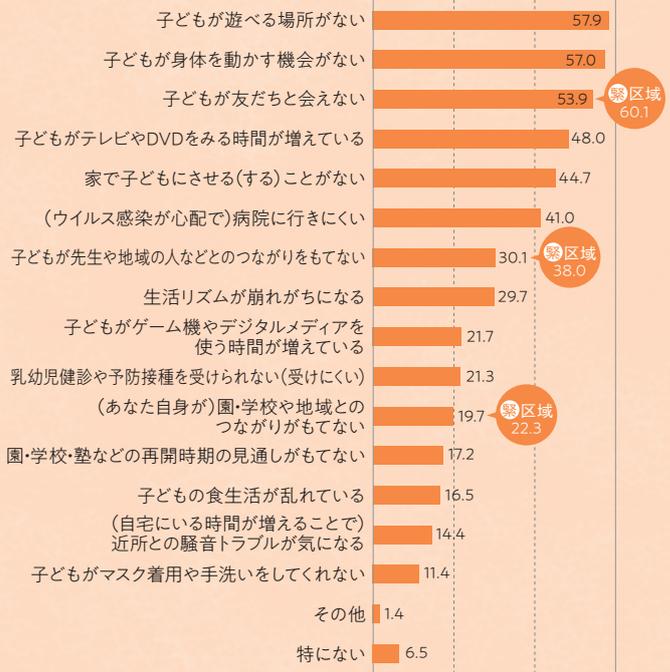
「人とのつながり」は、子育てに向き合う気持ちにも関連するようです。子育てを通じた人とのつながり

図1 人とのつながりを大切にしたい



図2 コロナ流行に伴う悩みや気がかり

Q.コロナ流行に伴い、現在、対象のおさまやあなたご自身のことについて、以下のような悩みや気がかりがありますか。(%) (いくつでも)



があると答えた保護者のほうが、子育てに楽しさを感じやすく、不安や悩みを抱え込みにくいという結果が出ています(図3)。子育てに悩みはつきものですが、自分の感情を言葉にしたり、だれかに受け止めてもらったりすると、不安感が和らぎ前向きに考えられるようになるものです。そうした機会を奪うことになったコロナ禍は、子育て中の保護者に「人とのつながり」の大きさを改めて浮かび上がらせたといえます。

## 「Withコロナ」時代に つながりをどう強めるか

4～5月の緊急事態宣言下のように対面による接

## ■ 幼児・小学生の生活に対する新型コロナウイルス感染症の影響調査

**調査目的**：新型コロナウイルス感染症の流行とそれに伴う生活環境の変化が、幼児と小学生の親子に与えた影響を明らかにすること。

**調査方法**：インターネット調査 **調査地域**：全国

**調査時期**：2020年5月22日～5月24日

**調査対象者**：1歳児(2018年度生まれ)～小学6年生の子どもをもつ母親 2,266人

**調査項目**：子どもの生活実態や子どもの様子/母親の子育ての悩みや気がかり、子育てに関わる意識、養育行動、今後の子育て・教育への意向など

◎調査結果はこちらから閲覧できます。

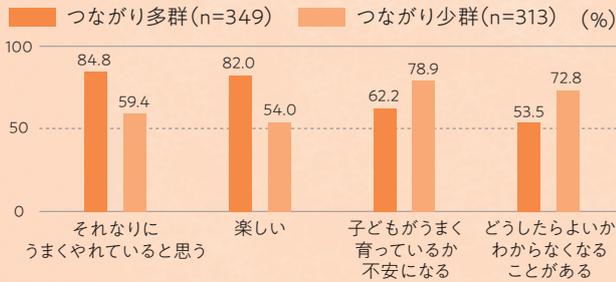
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=5520>

データ解説・本調査の担当

ベネッセ教育総合研究所主任研究員 真田 美恵子(さなだ みえこ)  
乳幼児領域を中心に、保護者や幼稚園・保育所・認定こども園の園長を対象とした意識や実態の調査研究を担当。



**図3** 子育てに向き合う気持ち(子育てを通した人とのつながり別)



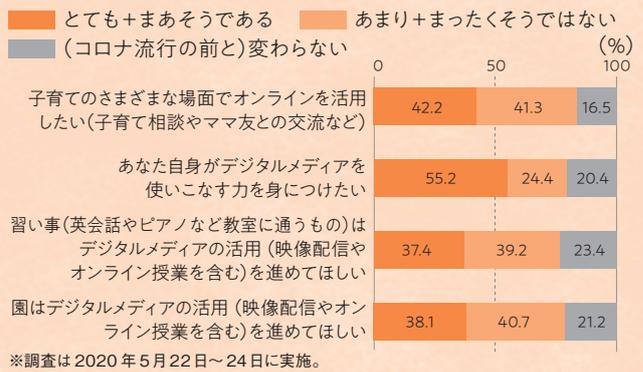
※とてもあてはまる+まああてはまる。 ※( )はサンプル数。  
※つながり多群・少群(配偶者・パートナー以外に)「子育てについて気軽に話せる人」「子育ての悩みを相談できる人」「子育ての情報を教えてくれる人」「子どものことを気にかけてくれる人」「あなたのことを気にかけてくれる人」への回答を得点化、合計を3区分した(中群略)。 ※調査は2020年5月22日～24日に実施。

触が困難な状況で、人とのつながりを保つために期待されるのがオンラインツールの活用です。保護者にオンラインに対する考え方を聞くと、それらが始まったばかりの5月調査時点では、多くの項目で期待や活用意向のあり・なしがそれぞれ4割ずつと、意見が分かれる結果となりました(図4)。自由記述回答にも、「登園できないときに、オンラインで保育を受けたり、先生や友だちとつながったりできるとよい」といった声があった一方で、「電子機器が苦手

でついていけない」といった声が寄せられました。

保護者によってオンラインツールの考え方やデジタル環境は異なります。各家庭の多様な状況に配慮しながら、保護者に人とのつながりの選択肢を増やせるようなデジタル・オンラインツールの活用方法を考えることがますます重要になるでしょう。そのようにして、大人が状況の変化に対応し、工夫して困難を乗り越えていこうとする姿は、子どもたちにも多くの学びを伝えていくのではないのでしょうか。

**図4** オンラインサービス等の期待・活用意向



## 園と保護者をつなぎ、ICTツールの可能性

コロナ禍で、ICTツールの活用を検討する園が全国的に増えています。自治体や地域、園による差がある中、ICTツールの導入に積極的な園の中には、保護者への連絡手段にメールやSNSを活用するほか、子どもの育ちを伝えるドキュメンテーションやポートフォリオを電子化しているところもあります。緊急事態宣言下にオンラインによる保育や保護者会、子育て支援を実施し、子どもや保護者とのつながり維持に努めた園もありました。

ICTツールの導入が進まない園には多忙で新たな取り組みの準備が難しい環境のほか、セキュリティ面への不安や家庭の情報格差、情報リテラシーを得る機会の不足など、さまざまな事情があるようです。園だけでは解決が難しい問題もあるので、自治体との連携が望まれます。

ICTツールを「代替手段」と捉えると、「今のままでよい」

東京大学大学院教育学研究科附属  
発達保育実践政策学センター  
特任助教 高橋 翠(たかはし みどり)先生\*



という発想になりがちです。しかし、ICTツールは園の理念の実現に役立ったり、園と保護者とのつながりを強めたりといった保育や幼児教育の幅を大きく広げる可能性を秘めています。一例ですが、運動会や生活発表会を動画で配信すれば、離れた場所に住む祖父母や地域の方々も視聴でき、子どもの育ちをより多くの人で見守り、支えることにつながっていくでしょう。

まずは簡便なツールの活用からスタートし、効果を実感できたら活用の幅を広げていくという形が考えられます。この分野は若い先生が得意なことが多いので、「ICT係」などを設置して力を発揮してもらい、世代間の学び合いに結びつけるのもよい方法でしょう。新たなテクノロジーにより園と保護者とのつながりが強まり、子どもの育ちを支える取り組みが実現されることを願っています。

\*高橋先生のプロフィール詳細は、P.2をご参照ください。